

平成30年2月28日（水曜日）

議員参院立足

国家公務員の人材必要 災害の緊急 対応など 勤務実態把握を



自民党の足立敏之参院議員は27日、議院運営委員会で国家公務員の人材確保や勤務実態の把握などについて質問した。写真。明るい未来が感じられる職場の形成や、災害の緊急対応などに従事する勤務実態を把握する重要性を強調。人材確保に関し、「建設産業は新しい3Kとして、給与、休暇、希望を若者に入っても

らう大事な要素としているが、公務員も同じ」と指摘した。

足立氏は、旧建設省や国土交通省に35年ほど勤務した経験を踏まえて質問した。「無駄な公共事業というレッテルをはられ、いいイメージを残念ながら持つてもらえず、志望者が減少する傾向になった」と現状を説明。その上で「やらなければならぬ使命があり、優秀な人材がいる。若い人たちが志を持って志望できる、明るい未来を感じられる職場にしないとけない」と求めた。

答弁した立花宏人事院人事官は、「国民の幸せに貢

献することなどが魅力に挙がる一方で、長時間残業がある。（定年前の）勸奨退職が取られ、どういふキャリアプランを立てて取り組めばいいかという話し合いができていない。改善すべき点の是正を通じ、地道だが働く場の改善、魅力の向上につなげるのが大事だ」と述べた。17年に実施した国家公務員の満足度調査を踏まえた対応を進める考えも示した。

足立氏は、災害の現場でも活躍する国家公務員の実態把握に関し、「水害や土砂災害が発生した際、応急復旧を建設業と一緒に進め

ている。災害の現場、見られない現場の状況をどう把握しているのか」と質問した。立花人事官は、「地元の方々が資材を投げ、命を投げ出して災害防止に努力されている実績を拝見した。公務の現場でも、二次災害の恐れがある中でもくもくと国民の生命、財産を守るために努力されている。華々しさが無いがまじめな取り組みで国土の保全、人の命が保たれている」と国家公務員の活動を巡る認識を示した。足立氏は、公務員の災害手当の充実と定員確保を求め、質問を終えた。